

血清、尿、糞便、唾液、發泡液、脊髄液等を用ひて皮内反應を試みたるに之等の體液、分泌液は「ストーム・アレゲン」の代用としては用ひられざるも「ストーム」反應と平行に施行すれば或濃度に於て被檢者の一團に或る程度「ストーム」反應の強度と平行する事を認む。尙「ストーム」反應と體液、分泌液の反應は其の本態を異にし體液、分泌液にのみ反應する特殊の疾患は無く之等に反應するものは「ストーム・アレゲン」にも反應する個體を含む多種の體質にして體液分泌液に對し非特殊性に反應するものなり。(桑原抄)

## 日本泌尿器科學會雜誌第二五卷第一號

昭和十一年一月

### 初期腎臟結核症に就て

#### 第二編 病理組織學的研究

金子榮壽

著者は初期腎臟結核患者十五例に就て、結核性病竈の腎内分布狀態及病竈の腎内初發部位、腎内に於ける結核性病變の蔓延、結核性病竈以外の部に於ける腎組織の非特異性病變に就て詳細に研究せり。

慢性腎結核症は排泄性傳染によりて、初めて其病變を腎盞腔特に其穹窿部に於て惹起し一方速かに腎盂腔及他腎盞腔内に蔓延すると共に他方腎壁を破りて腎洞内を浮浸し、主として淋巴道を経て、腎實質内若しくは腎莖に向ひて蔓延するものなり。(富板抄)

## 第二五卷第二號(昭和十一年二月)

抄 錄

### 尿浸潤に就て

久保山高敏  
櫻根進一

著者等は十九例の尿浸潤を経験し、十九例中十四例(七三・三七%)は淋疾の既往症を有し、年齢的には三〇—六九歳に多し。原因としては古き淋疾に因る尿道狹窄多く十九年中十三例(六八%)を示せり。(富板抄)

### 壯丁に於ける尿道外口の大きさの統計的觀察

日下正大男

總調査數二三八〇名(十六—三五歳)の尿道外口の大きさは健康者一五〇八名に於ては平均「シャリエ」の二四・四號(直徑八・一m.m)包莖を有する者一五五四名(測定不能者五三名は除く)は平均二四・二號(直徑八・〇六m.m)既往に包莖手術を行ひたる者(尿道畸形者三名を除く)四十名の平均は二四・一號(直徑八・〇三m.m)包莖手術直前及直後に測定せる二〇四名の平均は二三・四號(直徑七・八m.m)なり。

尿道外口に横中隔を有するもの二三名(二例を除く)の平均は二〇・六號(直徑六・八六m.m)尿道下裂を有するもの二五名の平均は二六・四號(直徑八・八〇m.m)なり。

其の他性病既往症を有するもの間には外尿道口の大きさの平均には大差なし。(富板抄)

### 老人腎結核

北川正悳  
河合松尾

第六卷 四〇三